

2011.05.22 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2011年

<ジョン・オズワルト著 『『聖』を生きる人々]>

第12章「聖と罪—『神から生まれた者は、罪を犯さない』か？」

聖句:

「誰でも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」(1ヨハネ3:9)

はじめに:

「罪を犯さない」という表現が余りにもストレートなので、翻訳者がこれを和らげてしまう。正しい理解のためには、この句を聖書全体から見る必要がある。

<問い1>

「罪がない、という人は偽り」(1:8)ではないのか？

<答え>

- ・ 1:8は「自分は罪を犯したことがない、また、犯していない、犯す可能性もない」と強がっている人への警告であるが、
- ・ 3:9は、「罪を犯しながらキリストの救いに留まることはありえない」という明確な立場を示す。
- ・ 2:1は、信仰者も光から外れて罪に陥る可能性があることも示す（その時には回復の道がある）。

<問い2>

信仰者が「罪を犯すことができない」(3:9)とはどんな意味か？また、「きよめられた」(1:9)筈なのに、「きよめられつづけねばならない」(1:7)とはどういうことなのか？

<答え>

- ・罪には二つの側面がある——①「知っている神の命令に背く」(創世記3章、民数記15:30-36)もの、②「誤って犯してしまう」もの(民数記15:22-29)。
- ・前者は、当然克服されるべきものである。
- ・後者の意味での罪は一生続く。だからといって、放置すれば傲慢や無慈悲などの深刻な罪を生む。それについては、弱さを認める正直さ、そして悔い改めと贖いへの信仰が必要。

<問い3>

私たちが救われるのは、罪を犯す行為からだけか、または、罪に傾く傾向からか？

<答え>

罪に傾く傾向も変えられる。それは、私たちが「キリストと共に十字架についた」という立場(潜在的可能性)を信仰によって実現すること(=罪に死ぬこと)による(ローマ8:13)。

終わりに：

「御霊の手に『ナイフ』を預けよう。」

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.